

1. 公益目的事業の実施内容

1-1. 支援プロジェクト

1-1(1) 教育支援

<1>中学・高校・大学生の奨学金支援

◆連携団体：KKEV（教育支援を行うドイツの NGO）

◆対象地域：カンボジア・センソック地域（プノンペン市郊外）

◆支援額：約 40 万円（中学・高校生・大学生・職業訓練校生：10 名分）

センソック地域（スラム）に暮らす成績優秀だが経済的に学校に通うことが困難な状況にある生徒の学費や教科書、制服、交通費等を支援。2019 年度は 10 名を支援（2 名はスカラーペアレント制度、2 名は大学生奨学金支援制度、残り 6 名はセカンドハンド・ユースが支援）している。また、25 周年記念事業として奨学生 2 名とカンボジア人スタッフ 1 名を招聘し、イベント等を通して、セカンドハンド・ユースや支援者と交流した。

1-1(2) 自立支援

<1>女性の自立支援事業

◆連携団体：ラチャナハンディクラフトバッタンバン（現地 NGO）

◆対象地域：カンボジア・バッタンバン州

◆支援額：約 20 万円

貧しい生活を強いられている女性たちの経済的自立をめざし、ラチャナハンディクラフトへの運営アドバイスを引き続き行っている。2013 年度から引き続き、高松市にある保育園からの委託で保育園制服の製作依頼も行っている。

<2>フェアトレード事業

◆連携団体：ラチャナハンディクラフトバッタンバン（現地 NGO）

◆対象地域：カンボジア・バッタンバン州

現地の女性たちが製作した商品を適正な価格で購入し日本で販売することにより、フェアトレード商品の普及を図っている。商品の販売は、チャリティーショップ内だけでなく、セカ

ンドハンド主催イベントへの出品や、県外でも様々なイベントに出店するなど、広くフェアトレード商品を知ってもらう場を提供している。また、県内外問わず、お店を経営されている方々等のご協力を得て、店内に商品を置かせて頂くことで、より多くの方々に商品を手にとてもらえる機会となっている。2019 年度は 25 周年記念事業として 2 名を招聘し、高松丸亀町壹番街ドーム広場で実演販売も行った。

«委託販売先» 順不同・敬称略

四国フェアトレードネットワーク、株式会社三彩商事（高松市）、天勝丸亀店（丸亀市）、和 Cafe ぐう（香川郡直島町）、永井敬子（東京都）

1-1(3) 医療支援

過去の支援先の現状確認を行った。訪れたのは、プノンペンにある、トウクトラヘルスセンター（2005 年建設支援）とポチエントン病院（2006 年建設支援）、スヴァイリエン州にあるスヴァイティアップ病院（2017 年建設支援）。いずれも器材や医師が揃い、市民が安心して通うことのできる場所になっていた。

1-1(4) 孤児院支援

<1>フォスター・ペアレント制度

◆連携団体：ホームランド（現地 NGO）

◆対象地域：バッタンバン州

◆支援額：約 80 万円

NGO ホームランドは、路上で暮らす子どもや虐待を受けた子ども等を保護し、自立もしくは親元に戻れるように、また親戚やカンボジア人の里親の元で生活していくように支援している。日本の里親が孤児院の子どもと手紙のやり取りをして繋がる「フォスター・ペアレント制度」を通じてホームランド孤児院への支援を行った。2019 年度は、22 名の里親が子ども達を支援した。また、25 周年事業として、4 名の里子とカンボジア人スタッフ 1 名を招聘し、イベント等を通して、里親や支援者と交流した。

<2> 保健衛生指導者育成プロジェクト

- ◆連携団体：香川県立保健医療大学、ホームランド孤児院（現地 NGO）
- ◆対象地域：バッタンバン州
- ◆支援額：約 40 万円

2017 年より、基本的な保健衛生に関して適切な指導ができる指導者を育成するための事業を、香川県立保健医療大学と連携し NGO ホームランドで実施してきた。最終年である 2019 年度は、8 月に事業評価として専門家と一緒に現地を訪問し、かかわったスタッフのインタビューや子どもたちの家庭訪問を実施した。

1-1(5) 緊急支援

<1> 台風 15 号、19 号災害

- ◆連携団体：日本赤十字社
- ◆支援額：75,247 円

台風 15 号および 19 号により、被災された方々を支援するため、店頭に募金箱を設置し、支援金を募った。集まったお金は、日本赤十字社を通し、被災された方々に届けられた。

1-2. 支援先視察・交流事業

1-2(1) 事業調整者による現地視察

セカンドハンドは支援先のカンボジアに事務所を置かず、現地団体と連携し支援活動を行うスタイルを取っているため、必要に応じて支援先の視察・訪問を行っている。2019 年度は、奨学金支援、孤児院支援、自立支援について、現場でのニーズや支援成果を確認するため職員をカンボジアに派遣した。なお、この訪問の際に、過去の学校建設支援校も訪問した。医療支援と同様、大切に使われていた。

1-2(2) 支援者と支援先関係者との交流

25 周年記念事業として支援先の各現地団体より 10 名を招聘し、イベント等を通し

て支援者と交流した。チャリティーショップでのボランティア体験、街頭募金活動の体験を通して、どのようにして支援金が生み出されているのかを支援先の皆さんに実感してもらった。また、支援者にとっても、カンボジアやセカンドハンドの支援先の人々の新たな一面を知る機会となった。

- ◆招へい期間：2019 年 10 月 18 日～27 日

- ◆招へい者：ホームランド(孤児院支援) スタッフ 1 名、里子 4 名
- KKEV(奨学金支援) スタッフ 1 名、奨学生 2 名
- ラチャナハンドクラフトバッタンバン 2 名

- ◆主な交流イベント：支援者との交流(ホームステイ、ボランティア体験)
- 学校の児童生徒との交流 ほか

1-3. 人材育成事業

1-3(1) セカンドハンド・ユースのサポート

香川県内で、社会を良くするために何かしたいと活動する学生たちに、活動の場の提供や活動のサポート等を行っている。2019 年度は、募金活動とイベント収入で 174,484 円を集め、貧困のため学校に通えない学生 6 名の奨学金支援を行った。25 周年記念事業で招聘した奨学生 2 名とは、香川県立保健医療大学祭、さぬき子どもの国でのイベント、街頭募金活動等で交流した。

1-3(2) ボランティア体験・インターン受入

学校などからの要請を受け、小～大学生や社会人等のボランティア体験、インターンの受入を行った。国際協力、ボランティア活動、職場体験など様々な学習テーマに合わせたプログラムを作成し対応した。様々な国際協力に繋がる活動を体験し、学ぶ機会となっている。

《2019 年度の主な依頼元》順不同・敬称略

高松大学、広島大学、紫雲中学校、三木中学校、山田中学校、三木高校、高松東高校、高松西高校、桜井高校、高松高校、高松商業高校、香川中央高校穴吹医療

大学校、KTC おおぞら高等学院、芝浦工業大学、東京農業大学、津田塾大学

1-4. 観察・調査受入れ事業

2019年度は要請がなかったため実施していない。

1-5. 講演・講座事業

<1> 主催講演会・講座

今年度は支援報告や視察渡航報告など、計 4 回開催した。全て一般公開で、初めての人も興味をもって参加できる内容となった。

《2019年度実施分》

保健衛生指導者育成プロジェクト報告会 会場：瓦町 FLAG 8 階 大会議室 1 (4月 21 日)

「カンボジアについて知ろう！」 会場：瓦町 FLAG 8 階 大会議室 1 (5月 26 日)

カンボジア渡航報告会 会場：瓦町 FLAG8 階 大会議室 1 (10月 5 日)

「カンボジアってこんな国！？」 会場：WeBase 高松 (10月 26 日)

<2> 講師派遣

2018年度は計 30 回の講師派遣を行った。また、JICA 国際協力出前講座を受託(2019年 4月～2021年 3月)し、講師を派遣した。講義後にボランティアとしてイベントに参加する学生も見られた。

《2019年度の依頼元》順不同・敬称略

香川大学、高松大学、松山国際交流協会、香川県立保健医療大学、義務教育学校
土佐山学舎、いの町立枝川小学校、高松市立中央小学校、四国青年 NGO HOPE、
海陽町立海陽中学校、松山市立北久米小学校、さぬきこどもの国、香川県立高松商
業高校、香川大学教育学部附属高松中学校、高松市立香東中学校、松山市立潮
見小学校、香川県立高松北中学校、香川県立農業大学校、高知県立高知東高校、
まなび工房、香川看護専門学校、聖カタリナ大学、高知県立室戸高等学校、大洲市

立喜多小学校、高松市立円座小学校、徳島県立池田高等学校、善通寺市立東部
小学校

1-6. 広報事業

<1> イベント開催

広くセカンドハンドについて知つもらうため、主催バザーやイベント出店を行った。収益は、合計 635,460 円。

《2019年度主催イベント》 売上合計：452,890 円

フェアトレード商品バザー@田町ぷらす 売上：5,050 円 (5月 11 日)

衣料品セール@けやき市場 売上：25,900 円 (6月 23-24 日)

食器市@けやき市場 売上：25,650 円 (7月 21-22 日)

フェアトレード商品バザー@瓦町駅改札前 売上：28,770 円 (8月 3-4 日)

布はぎれ・古本市@けやき市場 売上：64,770 円 (9月 8-9 日)

フェアトレード商品バザー@さぬきこどもの国 売上：22,000 円 (10月 22 日)

フェアトレード商品バザー@丸亀町一番街ドーム広場 売上：55,100 円 (10月 26 日)

食器市@けやき市場 売上：18,030 円 (11月 10-11 日)

冬物市@けやき市場 売上：37,630 円 (11月 24-25 日)

着物市@けやき市場 売上：52,220 円 (12月 8-9 日)

冬物市@けやき市場 売上：22,390 円 (1月 19-20 日)

布はぎれ・古本市@けやき市場 売上：73,800 円 (2月 16-17 日)

キッズ＆レトロフェア@けやき市場 売上：21,580 円 (3月 8-9 日)

《2019年度出店イベント》 売上合計：182,570 円

丸亀お城まつり 売上：99,030 円 (5月 3-4 日)

フェアトレードまつり 売上：2,400 円 (5月 19 日)

ぐるぐる商店街お仕事体験 売上：11,200 円 (6月 9 日)

YOU 俱楽部バザー 売上：21,000 円 (8月 4 日)

JCSN バザー 売上：5,100 円 (9月 14 日)

みんなでみんなの輪い和いかい 売上：5,300 円 (10月 6 日)

かがわ国際フェスタ 売上：16,190 円 (10月 14 日)

リビング歳末大フリー・マーケット 売上：11,750 円 (11月 23 日)

トキワ街マルシェ 売上：10,600 円 (12月 15 日)

<2> セカンドハンド通信発行

年間 4 回発行する広報誌。全国の支援者や希望者に無料発送(年 2 回)するだけでなく、ホームページでの公開、様々な施設において配布している。支援先の現状や支援の進行状況の報告などに加え、国際理解、市民活動、ボランティア、人材育成など様々なテーマを取り上げ、読者が幅広い視点で国際協力活動を捉えられるとともに、身近に感じられる様な内容にしている。2019 年度は 4 月 22 日に 96 号(特集：25 周年記念号第一弾)を 5,000 部、7 月 22 日に 97 号(特集：チャリティーショップとは)を 1,000 部、10 月 7 日に 98 号(特集：過去の支援先を見せてもらいました！)を 5,000 部、2019 年 1 月 1 日に 99 号(特集：25 周年記念事業)を 1,000 部発行し、全国の支援者に送付した。

<3> ウェブサイト、ソーシャルメディア

ブログ、Facebook、Instagram、ツイッターでは、活動内容、支援の状況や報告をタイムリーに更新した。

<4> 報道関係

2019 年度は以下の通り。

《新聞掲載》

2019/05/26 朝日新聞 「カンボジアの今 高松で伝えたい」

2019/12/07 四国新聞 「18 人・団体に助成金 百十四学術文化財団」

《ラジオ》

2019/4/10 RNC 西日本放送 「気ままにラジオ 雨の日晴れの日曇りの日」

2019/11/18～12/9 FM 愛媛 「井坂彰の Great Noisy Club!」

《テレビ》

2019/10/22 KSB 「スーパー J チャンネル」

2019/10/28～11/4 ケーブルメディア四国 「ニュースの時間です。」

カンボジアの今
高松で伝えたい
公益法人がイベント
セカンドハンドは 27 日に
設立 25 周年を迎える。無償
提供された日用品や衣類を
市内に設けたリサイクルシ
ョップで売り、その収益を
学校建設に寄付するなどの
活動をする。事務局の林香
子さん(30)は「現状を知っ
てもらうことで、ニーズに
あつた支援の継続につなげ
たい」と話していた。
(石川友恵)

カンボジアへの理解を深
めてもらおうと、現地で学
校建設などの支援を続ける
高松市の公益社団法人「セ
カンドハンド」が 25 日、市
民向けのイベントを市内で
開いた。この日はカンボジアで教
育や医療の支援に携わった
人たちが現状を説明。現地
では 1970 年代の内戦の
影響で十分な教育を受けら
れず、読み書きのできない
人も多いという。参加した大學生たちはゲ
ームなどを通じて理解を深
めた。県立保健医療大学
1 年

ゲームを通じてカンボ
ジアへの理解を深める
参加者たち!! 高松市



1-7. チャリティーショップ定着・3R 促進事業

チャリティーショップは、活動の支援金を集めるだけでなく、ボランティアとしての参加、品物の提供、お買い物など、「社会に対して何かしたい」と思う人にとって様々な関わり方ができる場である。また、地域の人々が活躍できる場、気軽に国際協力の情報にアクセスできる場など、さまざまな役割を担っており、いつでも、誰もが気軽に立ち寄れる国際協力の玄関口として市民に確実に根付いている。

<1>高松店

支援先やセカンドハンドの活動が見えるお店作りの工夫を随所で行っている。その結果、常連客でも店内の映像や掲示物の内容について話をするようになるなど、買い物客の意識が変化してきている。

<2>片原町店

2019年度は、外国人客の増加に対応し、英語・中国語での説明文やショップカード（英語）を設置するなど、誰もが入りやすい店舗作りに務めた。

<3>松縄店

2019年度は、毎月イベントを行い、新たな支援者の獲得に務めた。また、店内スペースを活かし、事務作業ボランティア作業場所としても活用した。事務作業ボランティアの作業場所として活用することで、これまで松縄店を知らなかった方にも足を運んでもらうことができ、セカンドハンドの活動をPRすることができた。

2. 法人の管理運営に関する事項

■ ボランティア

2019年度は約80名のボランティアの方々にご協力いただき、お店の運営やイベント出店を行った。ボランティアスタッフとのコミュニケーションを図るために、ミーティング（わいわい会）と交流会を開催。わいわい会ではレイアウト変更などのチャリティーショップに関することや、チャリティーイベントについての意見交換を行った。また、2019年度は多くのボランティアの協力により25周年記念事業を実施することができた。

《2019年度実施分》

わいわい会 会場：瓦町FLAG 8階大会議室（4月21日）

ボランティア交流会 会場：瓦町FLAG 11階ビアガーデン（5月26日）

歓迎会（25周年記念事業） 会場：セカンドハンド本部4階（10月18日）

交流会（25周年記念事業） 会場：仲見世（10月19日）

交流会（25周年記念事業） 会場：おさかな広場寿司和食こも（10月19日）

交流会（25周年記念事業） 会場：WeBase 高松（10月26日）

歓送会（25周年記念事業） 会場：個室居酒屋 北六（10月26日）

わいわい会 会場：セカンドハンド本部4階（12月21日）

忘年会 会場：琉球御殿（12月21日）

交流会 会場：仲見世（2月11日）

3. 関連する団体の事業内容

■ セカンドハンド北海道（イベント出店の収益金寄付などを通じてサポート）

《セカンドハンド通信97号より》

フェアトレードフェスタ2019 in さっぽろ（フェアフェス）が今年も6月29日、30日の2日間、札幌市中心部にある大通公園で開催されました。セカンドハンド北海道も2日目に出演し、カンボジアのクラフト品を販売しました。札幌市は6月1日に全国5都市目の「フェアトレードタウン」に認定されましたが、これもフェアフェス等を通じて市民が粘り強く

フェアトレードの理念と原則を訴えてきた成果だと思います。

《セカンドハンド通信100号より》

セカンドハンド北海道は12月21日（土）、札幌駅前地下広場で行われた北海道国際協力フェスタ2019に参加しました。セカンドハンド・ユースの方々がイベントでカンボジアコーヒーを販売していることを知り、今回はカンボジア商品を買ってくださった方にカンボジアコーヒー＆アンコールクッキーの試飲・試食を実施し、好評でした。カンボジアに関わる仕事をされている方から声を掛けられるなど、新たな出会いもありました。

■ セカンドハンド関東

イベント出店の収益金寄付などを通じてサポート

■ セカンドハンド大阪

事務局への経理面でのアドバイス、決算書や申告書の作成などを行った。

■ 四国NGOネットワーク(SNN)

四国内の国際協力NGOが相互につながりながら市民参加による国際協力活動の広がりを目指すもの。研修会やJICA四国とのラウンドテーブルへ参加した。「四国フェアトレード商品開発研修」では、各団体が取り組むフェアトレード事業について意見交換を行った。

■ 日本チャリティーショップネットワーク(JCSN)

全国のチャリティーショップ運営団体で構成された、国内でのさらなる定着を目指したネットワーク団体。今年は「共感から一步先へ」をテーマに9月14日に東京で開催された日本チャリティーショップネットワーク(JCSN)のフォーラムに参加した。仲間を増やし、地域における活動をさらに広めることを目的に、全国各地でチャリティーショップを運営している団体や関心のある方々が集い、お互いの活動について理解を深めた。